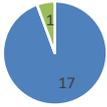
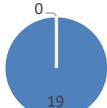
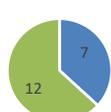
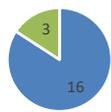
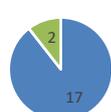
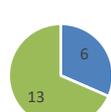


令和2年度 兵庫県立こばと聴覚特別支援学校 各部重点目標

- (ア) 聴覚に障害のある幼児の総合的な発達を促すための教育的支援を行う。
- (イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら一人一人のニーズに応じた教育を行い、幼児の個性と能力の伸長を目指す。
- (ウ) 愛情に満ち心の通い合う育児が行えるよう、保護者の支援を行う。
- (エ) 聴覚学習を通して個に応じた聴覚の活用を促しつつ、視覚情報も効果的に取り入れてコミュニケーション活動を活発にし、幼児が基礎的な言語を獲得できるようにする。
- (オ) 豊かな生活体験を通して基本的生活習慣の確立をはかり、幼児自身が直面するであろう障害に基づく困難を乗り越え、自立し社会参加できる将来像へと導く。
- (カ) 地域におけるセンターの機能と聴覚障害児教育への理解・啓発を図るとともに、開かれた学校づくりを推進する。

自己評価基準 A 達成している  B おおむね達成している  C あまり達成していない  D 達成していない 

学部・分掌	学校経営の重点			評価		
	各部の実践目標	成果と課題	各部評価	校内評価	校内評価	
保育相談部	(ウ) 愛情に満ち心の通い合う育児が行えるよう、保護者の支援を行う。					
		ザリガニや金魚の飼育、畑での野菜の収穫等、今年度は例年以上に幼児が自然に触れることができる保育を実施した。親子が様々な体験を共有し、話をするきっかけとなった。	A	A		
幼稚部	(ア) 聴覚に障害のある幼児の総合的な発達を促すための教育的支援を行う。					
	保護者と離れて活動する子どもデーを増やすことで、自ら考え、取り組み、相手に伝えようとする力を伸ばす。自分の力でやり遂げたという達成感と自信を深められるように、適切な支援を行う。	今年度は感染症対策により基本子どもデーとなったが、子どもが自分から友達に働きかけたり、保護者にその日の出来事を積極的に伝えたりする姿が以前より増え、成長が見られた。家庭での親子のやりとりにつながるように、記録や写真等で保育の様子を伝えるようにした。	A	A		
総務部	(ア) 聴覚に障害のある幼児の総合的な発達を促すための教育的支援を行う。					
	学校における儀式、行事等の立案に関しては、文化的教育・防災教育を中心に、可能なかぎり幼児の発達にあった体験活動が行えるよう計画し、スムーズな運営ができるよう関係部間との連絡調整に努める。	感染症対策が求められるなか、可能なかぎり幼児の発達にあわせた体験活動が行えるよう行事等の内容を検討し実施した。実施内容を見直し次年度につなげたい。	B	B		
教務部	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら一人一人のニーズに応じた教育を行い、幼児の個性と能力の伸長を目指す。					
	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員に『道徳教育全体計画』を配布し、教育課程や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」も含めて説明を行い、個別の指導計画のねらいや内容に反映させていく。 ・今年度新様式となった保育相談部の個別の指導計画について、作成から評価・改善までの手順や内容をまとめ、指導に生かせるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領改訂に伴う道徳教育に関する説明及び、本校における道徳教育の扱いについて資料配布の上、全教員に説明を行った。道徳教育のねらいを考慮して個別の指導計画を作成し、指導する際に意識できた。 ・個別の指導計画のねらいと日々の保育記録を関連付けることで一人一人の指導目標が明確になり、ねらいを意識した指導、懇談等における保護者支援の充実につながった。 	A	A		
相談センター部	(カ) 地域におけるセンターの機能と聴覚障害児教育への理解・啓発を図るとともに、開かれた学校づくりを推進する。					
	昨年度実施した難聴児の聴覚発達の確認に加え、言語発達についても指標を用いた確認を行い、難聴児の早期支援の充実を図る。	聴覚発達とあわせて言語発達についても指標を用いて評価を行った。新たに行った言語発達の評価については、評価対象者が少数であった。今後も引き続きそれぞれの発達について評価を行い、充実した支援につなげたい。	B	B		

研究部	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら一人一人のニーズに応じた教育を行い、幼児の個性と能力の伸長を目指す。					
	子どもの発達や障害を理解し、個性を認め、幼児それぞれの能力をより伸ばせるような支援の在り方について各部で協議し、実践に生かすことで教員全体の専門性の向上を目指す。	幼稚園は発音指導について、動画を見て幼児の成長や支援について協議し、その後の発音の個別指導や発音遊びに活かした。保育相談部はクラスの枠を越えて担任が入れ替わり保育を行うことで、幼児の発達の特徴について学んだ。	A	A		
生活・保健部	(ア) 聴覚に障害のある幼児の総合的な発達を促すための教育的支援を行う。					
	望ましい食習慣の形成を目指し、幼児の食に関する興味や関心を育てるため、季節や行事に配慮した給食を実施したり、野菜等の栽培活動を行う。	季節や行事への配慮や、兵庫県産の食材を使用した給食の実施や野菜等を栽培することで、食べるものに興味を持つようになったようだ。また、臨時休業中はオンライン保育、学校再開後は玄関掲示を活用し、幼児や保護者に対し畑の様子や注意事項、親子のやりとりのヒント等を発信した。	B	B		
	幼児玄関に、親子で一緒に見て話ができるように各クラスの保育場面写真を掲示し、自分の経験を振り返るだけでなく、他のクラスの保育の様子を知る機会とする。また、掲示の目的について保護者に伝える。	各クラスとも保育場面の写真を毎月2枚程度更新しながら掲示することができた。今年度は幼稚園部の保護者が保育を参観する機会が減ったため、保育の様子を知る機会の一つとして活用されていた。	A	A		
	(オ) 豊かな生活体験を通して基本的な生活習慣の確立をはかり、幼児自身が直面するであろう障害に基づく困難を乗り越え、自立し社会参加できる将来像へと導く。					
	交通安全教室や日々の交通安全指導を行うことにより、事故を未然に防ぐための安全な方法について幼児に理解を促す。	交通安全教室を実施したことで、横断歩道の渡り方や信号機の見方について学べた。指導後、登下校時に校内の横断歩道を渡る際、親子で信号の色や左右の確認ができた。	A	A		
幼児期の健康について(感染症の予防、弱視の予防、歯と口の健康、基本的な生活習慣)学校医、家庭と連携し、幼児の健やかな成長・発育を促す。	感染予防について幼児の発達段階により保健教育を行い、各場面ごとに手洗い習慣をみにつけることができた。	B	A			
情報部	(エ) 聴覚学習を通して個に応じた聴覚の活用を促しつつ、視覚情報も効果的に取り入れてコミュニケーション活動を活発にし、幼児が基礎的な言語を獲得できるようにする。					
	図書室前に、季節や行事に関する絵本を掲示することで、子どもたちの絵本への興味を広げる。また、子どもが興味をもった絵本についてのアンケートを実施し、図書日より等で紹介することで、絵本選びの参考にしてもらう。	季節や行事に関する絵本を図書室前に掲示した。アンケート結果は、集計後図書だよりに掲載した。また、幼児が借りやすいように、図書室の絵本の在庫を季節ごとやジャンルごとに分けて整理した。	B	A		
	(エ) 聴覚学習を通して個に応じた聴覚の活用を促しつつ、視覚情報も効果的に取り入れてコミュニケーション活動を活発にし、幼児が基礎的な言語を獲得できるようにする。					
今年度は「パソコン困り事ヘルプ窓口」を設置し、担当者2名が、PCソフトウェアの使い方やその他の機器の操作等の疑問に個別に対応することで、ICT活用能力の向上を図る。	日々の業務の中でパソコンやその他のICT機器の操作について質問があった時には、すぐに対応し回答をするようにした。担当者が分からない場合も、調べて解決策を提示するようにした。	B	B			
自立活動部	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら一人一人のニーズに応じた教育を行い、幼児の個性と能力の伸長を目指す。					
	・個々の発音の実態に合わせて、楽しみながら意欲的に取り組めるような発音個別を行う。また聴能担当やクラス担任との連携を深め、生活の中にも発音練習を取り入れ、確実な定着を目指す。 ・体を動かしながら音やリズムを楽しむ中で、個々の実態に合わせて聴覚の活用を促す。 ・聴能個別の時間等を利用して聴能評価を行い、担任や発音担当者と情報を共有し、適切な支援につなげる。	・発音個別では子どもの思いを大切にしながら大いに誉め、1音ずつ丁寧な指導を行なった。 ・音楽リズムのピアノに合わせて身体を動かす活動では幼児の実態に合わせて和太鼓やオンドーナを取り入れた。 ・聴力測定や語音検査などを行い、担任や発音担当と情報を共有することができた。	A	A	